「節目を尊ぶ、人生は旅」

奉祝 即位礼正殿の儀

松栄山報

令和元年
秋季例大祭号

秋季例大祭の蘭陵王

これからの祭典行事案内

これからの祭典行事案内

十一月

第六十八回 大分市菊花展
一日～十三日

大嘗祭当日祭（十四日）・十五日

新嘗祭
二十三日
護國神社の神饌田で十月に収穫されたばかりの新穀を神前にお供えし五穀豊穣の感謝と国の平和をお祈りします。

十二月

大絵馬奉納
一日
来年の干支「子」が描かれた大絵馬を設置除幕して、護國神社の年越し準備が始まります。

御煤払い、大注連縄掛け替え
二十五日
神職仕女一同で社殿や神門の今年一年間の汚れを忌竹で払い清めます。併せて今年の新穀の藁を使って大注連縄を作り、本殿前に掛け替えをします

師走大祓式並びに除夜祭
臨時仕女奉仕奉告祭
三十一日

七五三詣りのご案内

三歳五歳七歳の子どもさんの健やかな成長を願う七五三のお参りは、神様やご両親などあらゆることから大きな祝福を与えられお祝いされます。純真、そして無垢である子ども心に呼応するかのような大切なお祭りです。

我が子の健康、そして末永い幸せをと心を込めて祈願し神様に託す日本の美しい伝統儀式のひとつである佳き日。日本を護り神様となられた護國神社の御霊たちの大きなご加護をお受けください。

11月15日の当日は大変込み合います。お繰り合わせいただき15日前後のご都合のよいお日にちのご参拝をお勧めいたします。

令和二年 希望の一文字 募集！

新しい御代、令和になって初めてのお正月。そして干支も十二支のスタートである子年。あなたは一文字に何を託しますか。希望の思い、そして夢。あなたの一文字を募集します。

■募集期間
令和元年十一月一日㈮～十二月十五日㈰必着

■選考日
令和元年十二月十六日㈪

■書初日
令和二年一月二日㈭正午より
護國神社神楽殿前

■募集要項
神社に備え付けの所定用紙に「来年の漢字」と、その一文字を選んだ理由を簡単に説明。
氏名、年齢、性別、住所、電話番号を書き添えて、左記に郵送もしくはファクシミリ、または直接神社社務所にご持参、設置されている応募箱にご投函ください。応募はおひとり一文字のみとさせていただきます。
なお、入選の方には後日連絡いたしますので、電話番号の記入漏れがないよう必ず明記してください。

〒870・0925
大分市大字牧一三七一番地
大分縣護國神社
「新しい年 希望の一文字募集」係

師走大祓式ご案内

知らず知らずのうちに、また本人が意とせぬうちに心や体についてしまった一年間の罪や穢れ。いにしえより続くこの節目を尊ぶ行事は、日本人がもっとも大切にし、そしてもっとも畏敬する「生まれ変わり」「再生」のお祭りのひとつであると言えます。

特に今年は元号が改まり天皇陛下御即位のご大礼が行われた大きな節目の年でもありました。また来年は十二支の先頭である子年です。今年同様に来年も大きな節目、そして新たなスタートの年となります。

日本人は「今日から気持ちを変えて新たな思いで」という精神がどこの国の人々よりも強いと言われています。心も体もきれいにして次に臨むという潔さにも通じる精神の高さをうかがい知ることができます。

六月三十日の夏越大祓は一年間の折り返しの日のけじめと下半年への意気込みを覗かせる儀式。師走大祓は一年三百六十五日を本日ここに無事に終える最後の日に立つ感謝と心身を浄め間もなくやってくる新年への心構えの確認と、そして新たな年への祈りの節目であると言えます。

さまざまがあったこの一年間。ご自身にもご家族にも、そして国にとってもまさしく千変万化のような目まぐるしさであったと思います。せめてご自身とご家族の平安と無事に心から感謝し、新たな年明けに向けたリセットの準備をしていただければと願うものであります。

ご参列はどなたも自由です。お誘い合わせのうえ、ぜひご参加くださいますようご案内いたします。

■日　時／令和元年 12 月 31 日㈫
　　午後 3 時より
■場　所／大分縣護國神社
　　人形（ひとがた）に思いや願いを託したお祭りの後、本殿にて参拝します

発行／令和元年 10 月 25 日
発行者／大分縣護國神社　発行責任者／八坂秀史
大分市大字牧1371　電話番号097 - 558 - 3096㈹
http://www.oita-gokoku.jp/

ごあいさつ

大分縣護國神社宮司
八坂秀史

十月九日秋晴れに国旗日の丸がたなびく下、秋季例大祭を斎行いたしました。県下各地から早朝よりお参りくださったご遺族をはじめ、献幣使をお勤めの大分県神社庁長、ご来賓各位のご参列を仰ぎ、厳粛な内にも盛大に斎了できたことは感謝にたえません。また大分県遺族会連合会、地元自治会長、地域の諸団体のご奉仕、企業のご協賛を今年もいただきました。皆様方のご厚志に厚く御礼を申し上げます。このたびは令和の御代を言祝ぎ舞楽蘭陵王を特別に奉納いたしました。勇壮な舞に御霊たちもさぞご感応召されたことと拝します。どうぞこの春秋二季の例大祭が今後とも変わらずに斎行されますようお力添え賜りたく存じます。

畏くも天皇陛下には十月二十二日に即位礼正殿の儀に臨まれ即位を内外に明らかになされました。国を挙げての一大慶事を私たちも厳粛に受けとめ謹んで奉祝申し上げたく存じます。

そのお言葉では「…上皇陛下が三十年以上にわたる御在位の間、常に国民の幸せと世界の平和を願われ…その御心を御自身のお姿でお示しになってこられたことに、改めて深く思いをいたし…」と仰いました。また遡って五月一日即位後朝見の儀初めてのお言葉では「…歴代の天皇のなさりようを心にとどめ、自己研鑽に励むとともに（中略）日本国及び日本国民統合の象徴としての責務を果たすことを誓い…」と申し述べられました。畏れ多くも何れのお言葉にも先例のない新しい表現を加えられました。

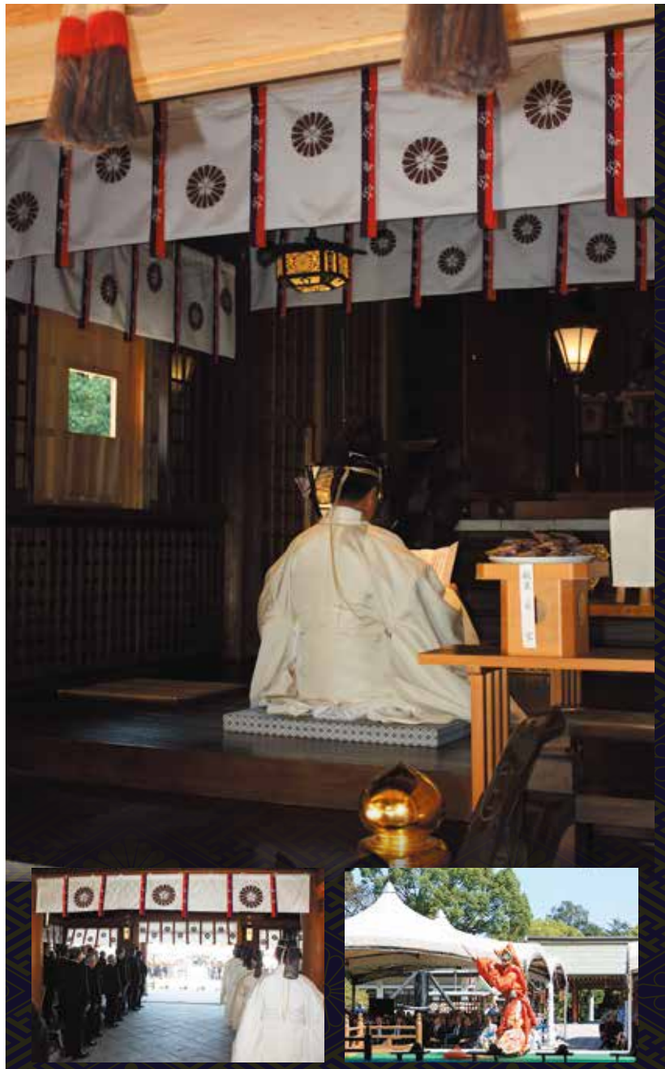
陛下は歴代の天皇のご事績を大切にする、皇室のしきたりを重んじると仰せられると同時に新しい未知の一歩を踏み出されました。

皇室の歴史は初代神武天皇から第一二六代の今上陛下まで皇紀でおよそ二六八〇年にも及びます。この世界に比類なき長久の歴史と伝統を受け継ぐことがどれほどの重責なのか誰も想像すらできません。

しかし、歴代の天皇が年頭の四方拝から始まり日々国安かれと民安かれと神々にお祈りされていることは心ある日本人なら承知していることでもあります。

今上陛下は、伝統の継承者であると同時に新しい時代への先駆者のお姿をも体現なさいました。必ずやこれまでの天皇と同様に皇居奥深くで日々日本国と日本国民、そして世界のために心新たな祈りを捧げられることと拝察いたします。

御代替わりに際し、私たちもいよいよ皇室を尊びより良い国民でありたいと思います。



秋季例大祭

涼秋を感じた十月九日、秋季例大祭が滞りなく執り行われました。

祭典のあいだ、爽やかな風が本殿や境内にいきわたるように吹き、時つ風が護國神社と街との特別な境を感じられるような厳かさがうかがえました。

令和になって初めての秋季例大祭。天皇陛下が高御座に昇られ即位の宣明（お言葉）をされる即位礼正殿の儀に臨まれた二週間後に控えたこの日、今年は祭典のなかで即位礼を奉祝する舞楽のひとつである「蘭陵王」の奉納が特別に行われ殊のほか厳かな大祭になりました。

献幣使として神日出男大分県神社庁長様をはじめ、役員、県下各界の代表、そして県内よりご参集の多くのご遺族、崇敬の皆さまのご参列をいただきました。

宮司の祝詞。神献幣使様、荒金奉斎会会長の祭詞。日本を平和へと導き、そして変わることなく見守り続けてくださっている御霊への感謝の言葉が粛々と続きました。

そばにいたお父さん、兄弟、友人知人であった方たちが神さまになっている。身近で、そしてこの大きな事実は日本の近代史のもっとも崇高な歴史とも言えます。大切な人が命を犠牲にして日本を護ってくれ神さまになった。子々孫々に至るまで日本人として感謝と崇敬の思いを深く持ち続けねばならないということを改めて心にしっかりと刻む秋季例大祭でした。

明治、大正、昭和、平成、そして令和。護國神社の春秋の例大祭も過去をお手本にしながらも時代に即したお祭りとご奉仕へと変遷しています。御霊をお慰めするお祭りであることは何にも代えがたいことですが、もうひとつは参列の皆さまのご負担にならないように式を進めることも大切なことです。そこにはご遺族にご高齢の方が増えているという如何ともしがたい事実があります。神社として神さまは大切、しかしご遺族や参列の皆さまへの心配りも大事なことです。

当日の午後からは大分市でラグビーワールドカップが開催され、大祭に参列の皆さまにとっては交通規制を前にしてようこそのお参りをいただきました。

時代が変わり戦後七十四年を経てここ大分市で国際色豊かな試合が行われる時代がきたことを御霊たちはどのようにお感じになっていることでしょうか。きっと平和なればこそできる国際試合の開催に神社にお鎮まりの御霊はご感応されていることと思います。ご自分たちの尊い命と未来ある運命を日本と愛する人びとのために捧げて散っていったその崇高な思いが、時を経てこのように花開き、そしてさらに成長を遂げている祖国日本の礎となっていることにきっと満足されているはずです。

御心静かにお眠りになっている証は日本が大東亜戦争以来、世界的にも稀有な平和が長く続いているということではないでしょうか。御霊の愛国の御心に反するような我々国民の気持ちがあったならば、御霊の御心は穏やかであろうはずがありません。何らかの事象で私たちに気付かせようとなさるかもしれません。貴い皇室、尊い神さまと常に共にある私たち日本人。感謝と祈りの日々は私たちにとって「人生の旅」のそのものではないでしょうか。

奉納神賑行事（敬称略）

■献吟　淡窓伝光霊流　大分詩道会
■献菓　御菓子司菊家　御茶舗若竹園（敬称略）
■献茶　裏千家清水社中

■協賛企業（敬称略）
大分県銀行協会、大分交通㈱、㈲御菓子司くらや、㈱御菓子司菊家、㈱トラスト、㈱イーエムアイ

即位礼当日祭

十月二十二日

高御座（左）と御帳台（右）　神社本庁HPより

五月一日の践祚の儀、朝見の儀から始まった令和のご大礼。

最高の皇室儀礼である即位礼正殿の儀が十月二十二日に国内外からの参列者二千人が見守るなか執り行われました。

高御座の紫の帳（とばり）を左右の侍従が開くと黄櫨染御袍をお召しの陛下のお姿が。その直前まで降っていた雨は御代替わりを寿ぐ清め祓いような神雨かと思えるような強いものでした。それはまさしく三種の神器のひとつ天叢雲剣のご神威を目の当たりにした感でした。ところが徐々に雨がやみ、陛下の宣明がはじまると上空には晴れ間がのぞき、さらには皇居上空には虹が。皇祖神にして日本国民の総氏神である天照大神の両親、イザナギニミコトとイザナミノミコトが虹を渡って下界に降りられたという神話を彷彿とさせる光景がまさに私たちの目の前で繰り広げられ、天皇陛下と神国日本の神々しさと荘厳さ、そして麗しさに有り難い思いと畏れ多きことを感じました。霊峰富士山にはこの日、初冠雪が見られたとも言います。この日、息をのむような自然界の演出は神々の御業にほかありませんでした。

日本に天照大神のご子孫である天皇陛下あり。粛々と進まれていく有職に彩られた古式ゆかしいご様子はそこはかとなく私たちの琴線に触れ、そして喜びに心が震える思いでした。陛下ご一代限りの儀式のご様子とともに過ごせたことは、皇室を頂く麗しく気高い日本に、そして日本人に生まれたことの誇りを国民の誰もが感じたことと思います。

新しい御代、そして代替わりなさった天皇皇后両陛下とともにこの日本で暮らす私たち。豊かな自然と美しい四季折々の移ろいは日本人の精神性の高さ、民族性の美しさをなお一層磨き、そして昇華させます。何も欠けることのないほどすべてに恵まれている日本という国土。この国には天照大神をはじめ一木一草、そして一石に及ぶまでさまざまな神様が宿り、私たちの祖先は長い年月を経ても変わることなくその神様がたを敬い慈しみ続けていました。そして他の国には類を見ることのない連綿と続く天皇陛下の貴いお血筋。日本を守る天照大神のご子孫として歴代の陛下は御所の奥深くで「国安かれ」と祈りを続けていらっしゃいます。

即位礼正殿の儀をはじめとするこのたびのご大礼は多くの若い方々にとても大変貴重な出来事として興味深くご覧になっていると思います。

皇居における五月からのご大礼のさまざまなお行事の様子や陛下をはじめ参列者の様子は、まさしく神様を頂く日本ならではの古式の伝統や格式、そして美しさの集大成であります。陛下の重儀をとおして麗しい国日本を改めて真摯に感じることのできる令和元年ではないでしょうか。

護國神社では即位礼正殿の儀をお祝いし、両陛下の弥栄と新しい時代の入り口に立った日本の平和を祈念する即位礼当日祭を神社役員、崇敬者参列のもとに執り行いました。国民等しく、そしてご奉仕した私どもの思いと同じように本殿奥にお鎮まりの四万四千四百五十八柱の御霊たちも、それぞれの孫やひ孫のお年に近い両陛下のご立派なお姿にさぞかしお喜びであったに違いありません。

9・21全国護国神社　世界平和の祈り
「愛」による世界平和の奉納揮毫開催

全国の護國神社で一斉に行われた平和を願う非常に意義深い奉納揮毫が今年も当社でも行われました。

残念なことに昨今日本を取り巻く近隣諸国の無謀さが非常に常軌を逸してきております。北方領土や竹島といった日本の領土である島々への実効支配は日ごとに過激さを増し、約束を守らない国家間の条約の反故。ほとんどが国として人間の資質として疑問を抱くことばかりです。

大戦前の日本を身をもって体験したお年寄りは、この危うさや人々の心の荒みようはまるで先の大東亜戦争の前に似ているようにも見えると言われます。近隣国の脅威、そして高潔であるはずの日本人の精神が脆くなってきている今を思う時、お年寄りの危惧が現実へと変わらないようにと願うばかりです。

一人ひとりの平和への願いが、大きく強固な力を持つ希望や願いとなって戦争を繰り返さない智恵と力へと変わるはずです。

そのような国を思い平和な日本の未来の願いをカタチにと、九月二十一日に当社拝殿にて書家松本重幸さんによる聖徳太子の「以和為貴」と、「世界彌栄」の力強くも気品ある奉納揮毫が行われました。

今から千四百年以上も前、飛鳥時代に協和・協調を重んじることが大切であるという聖徳太子が自ら発信した「和を以て貴しとなす」の言葉。太子は日本の気高さを国の内外に示し、中国（当時は隋）にも対等な立場を正々堂々とした態度で臨みました。それは現代にひけを取らいな壮大で崇高、グローバルな視座を持っていたということです。

「以和為貴」、太子の言葉に宿る文字霊（ことだま）を心に留めて日々を過ごし日本人としての矜持を保つ指針とし、併せて「世界彌栄」に込められた令和への祝意と希望の奉納揮毫でした。

山歩紀（やまあるき）

山に思う

薩摩富士たる開聞岳

宮司　八坂秀史

薩摩半島の南端、開聞岳にはずっと登りたかった。特攻隊の方々が本土の見納めとした山をぜひ訪れたかった。海面から立ち上がる見事な円錐形の山容にも魅了されていた。登山前日の指宿入りは豪雨、当日は止んだが開聞岳の頂上付近は綿帽子をかぶったように雲がまとわりついている。雨かと思いつつ午前九時二十二分登山開始。潮風をかぎながらの山行のはずが猛暑と湿気の中を進むことに。シダ植物が目立つ樹林帯を黙々と歩き五十分で五合目に着く。ウッドデッキに足を投げだし大休憩。帽子のつばから汗が滴る。ここは少しは景色が良さそうだがその分徐々に雲が山を覆っていくさまが分かる。五合目からは足元に岩がちらほら出てくる。開聞岳登山道は円錐形の山を時計回りにらせん状に登っていく。ジグザグも下りもなく同じくらいの傾斜をただただ登る。展望がきかない今日は一合目ごとの標柱が励みだ。七合目あたりの展望案内図には佐多岬種子島屋久島などが記されているが周りは既に真っ白。仙人堂という風穴からはほぼ岩場、八合目からは完全に岩場となりハシゴや鎖場を経て頂上直下の祠に至る。朝この開聞岳を御神体と崇める薩摩の式内社枚聞（ひらきき）神社に詣でた。早朝だったが掃き掃除をする職員の先頭には旧知のT宮司も。突然の参拝にも笑顔で応えてくださり雲はあるが山は大丈夫だと仰った。

今日は来た。

頂上への道のりは大部分深い樹林に覆われ、今回は雲にも覆われ変化には乏しかった。しかし下山後の眺めは、雲は少々あったものの秀麗な開聞岳にやはり感動した。初めて登った山を帰路改めてふり返ると胸中には愛おしさが漂う。次は好天に再訪し東シナ海の海原遥かを望みたい。殉国の若人を偲び、神職の原点にも触れた山行となった。

平成から新しい御代へ

我が国では、天照大御神の御子孫が代々、天皇として御位をつがれ、日本の国を治められるとともに、天照大御神をお祀りされてきました。そして、大御神から授けられた稲によって稲作を行い繁栄してきたのです。

平成の御代を国民とともに歩まれた上皇陛下。五月一日には皇太子殿下が即位され、元号が「令和」と改まりました。

十月二十二日には即位礼正殿の儀が執り行われ皇位につかれた天皇陛下が、その即位を全国民、諸外国に対し高らかに宣明なさいました。また全国の神社では即位礼当日祭が斎行され国民がひとつになって奉祝をいたしました。

御即位直後の今年五月、私は大分縣護國神社皇居勤労奉仕団としてご奉仕して参りました。今回は団長を勤めさせていただき総勢十六名のご奉仕となりました。

「令和」最初の佳きときに参加できたこと大変有り難く光栄でありました。

ご奉仕では一般の方が入れない宮殿の中庭。そして宮中三殿の斎庭内の清掃奉仕をさせていただきました。

そして令和最初の御会釈の機会をいただき光栄で胸がいっぱいになりました。皇居勤労奉仕団六団体中、大分縣護國神社は最後の御会釈を賜りました。

団長　大分県から参りました大分縣護國神社勤労奉仕団十六名です

陛下　皆さん護國神社の関係の方ですか

団長　はい。ご遺族と崇敬者の皆様です

陛下　お勤めご苦労様です　お元気でお過ごしください

団長　ありがとうございます

伊勢神宮崇敬者皇居勤労奉仕団団長に合わせ、陛下の御前にて「天皇陛下皇后陛下万歳」の三唱をいたしました。

天皇陛下のご会釈が初めての方が多く、皆さん大変お喜びの様子で感動されたことと思います。護國神社では皇居勤労奉仕の旅を毎年行っておりますので、ぜひ参加されてみてはいかがでしょう。

生涯の深い思い出となるご奉仕を通して令和の時代に日本国民として生きる大きな喜びを分かち合っていきたいと思います。

皇居勤労奉仕のご案内

天皇陛下が即位されて皇居のうちそとでは新たな御代への息吹が感じられる来年五月に皇居勤労奉仕を実施いたします。上皇上皇后両陛下が慈しみ愛された皇居の森。そこにはもはや日本に数少なくなった希少な植物もあり武蔵野の面影を色濃く残していると言われています。

ご即位翌年という非常に意義のある令和二年五月に大分縣護國神社では皇居勤労奉仕を予定しております。皇居でのご奉仕は、上皇上皇后両陛下や天皇皇后両陛下がいらっしゃる間近で新しい御代令和の喜びを全身で感じながら、そして上皇上皇后両陛下の弥栄とご長寿を心から願い、新しく御位に立たれた天皇陛下のご健康と弥栄をお祈りしながらの特別な五日間になります。

過去十年間続いています皇居勤労奉仕。延べおよそ七百名近い方々が参加され、かしこくも両陛下からのお会釈を賜り、そして日頃は決して足を踏み入れることのできない皇居奥深くや、皇族方がお住まいの赤坂御用地での清掃奉仕は毎回感動と喜びに包まれています。貴い陛下にお目にかかる。お側近くで数日間ご奉仕ができる。私たち日本人にとってこれほどの感動と栄誉はない貴重な体験となり終生の大きな思い出になります。

両陛下のお姿を間近で拝し、そしてお会釈を賜ることができ、この上ない喜びのまま毎日の暮らしの励みになったという参加者もいました。また、両陛下の慈愛に満ちたお声をお聞きしたことで日本人に生まれて心から良かったという参加者もいました。

来年五月十八日から二十三日に実施いたします皇居勤労奉仕のご案内と参加者募集の詳細の趣意書は社務所にご用意しております。

ご大礼直後の令和二年という誠におめでたい陽春の季節。麗しく希望にあふれた新しい御代の皇居勤労奉仕のご参加をご検討くださいますようご案内を申し上げます。